

## 多様なニーズにこたえて事業をつくり、制度を変える

～子ども子育て支援の実践・NPO 法人ピッピ・親子サポートネットを訪ねて～

### 横浜市認可ピッピ保育園の誕生と NPO 法人の設立

多様な保育の場を作ろうと「ワーカーズコレクティブ」による子育て支援事業が前身の認可外保育室“子どもミニデイサービスまーぶる”（定員 10 人）が、2000 年に始まった。理由を問わず子どもを預けることができるため、利用料負担があってもニーズが高い。しかし、人件費や施設運営費がかかり利用料金だけでは運営は厳しい。一方、認可保育園の一時保育は親の負担は軽い、枠が少ない。同じ地域の子もなのに認可外の保育室か認可保育園なのかで、利用者にも運営側にも格差がある。

2005 年に待機児童ゼロをめざして NPO にも新規参入の道が開けたことから「NPO 法人ピッピ・親子サポートネット」を設立、「横浜市認可ピッピ保育園」（定員 30 人）を開設した。開設には、資金・土地の提供、行政情報も含め、活動をともにする運動グループとのネットワークが大きな力となった。



ピッピ保育園 - 建物の周りを有効に使った園庭 -

### 一時保育の実践から見えてきた多様なニーズ

認可保育園として運営を安定させ、ニーズの高い一時保育（一日定員 15 人）を独自事業としている。そして、卒園した障がい児のための放課後の居場所やスタッフの子どもが通える学童保育とフリースペースを備えた「となりの家」を開設。そこは、2007 年 10 月「横浜市障害児放課後居場所支援事業」となり、国の放課後支援サービスの先駆けとなった。その他、産前産後ケアや閉じこもりがちな高齢者のために出向く「ヘルパーステーションみんなの家」も開設。閑静な住宅地の個人住宅を活用した「大場町みんなのいえ・わたせハウス」は、サロンと

食がテーマの「まちの台所」を中心に「地域福祉交流拠点モデル事業」として助成を受け、一時保育と高齢者デイサービスを加え多世代が集える居場所となった。

### ニーズをカタチに

子ども子育てへのニーズは、横浜市乳幼児一時預かり事業につながり、親子の集いの広場事業は、現在、NPO の運営で 50 か所以上に広がっている。また、認可保育所は 5 ～ 600 所で 12～3 万人の利用だが、一時保育は 18 か所ですべて年間 5 万何千人が利用している。その中に多様なニーズがあり、制度とのミスマッチが実践の中で浮かび上がっている。各自治体では待機児童対策として認可保育園の開設をめざしているが、生活に合わせた子どもの預け方・預かり方として、一時保育・小規模保育は、子ども支援・親支援につながり、待機児解消にも有効といえる。一時保育の利用では、子どもたちの育ち合いが感じとれ落ち着いている様子がみられるという。働くスタッフは「ワーカーズ・コレクティブ」という働き方にこだわりパーセントワーク（時間の多少）を実践しながら地域の女性たちの力を活かし、働き方や子育てに悩んでいる人の受け皿にもなっていた。



わたせハウス - 杉の木にこだわり、ぬくもりのある室内 -

制度に乗り運営を安定させ、必要なサービスを独自事業としてつくりだし制度を変えていく取り組みは、フットワークの良さやネットワークの力を活かし、政策提案を続けてきた成果と言える。（工藤）

## 評価室内部研修報告

今年度 5 度目となる内部研修は、「評価項目の理解を深める」を目的に、東京都評価推進機構評価支援室が設置する研究委員会において、高齢ワーキング委員を務める有限会社心のひろば代表井上信太郎さんを招いて行いました。

はじめに、『サービスの実施項目』について、整備されてきた経緯と現在の検討課題をうかがいました。評価項目の解説は、細目の標準項目によってサービスの実態を明らかにする手順を、井上さんが運営する小規模多機能型居宅介護事業所での事例を挙げながら説明していただき、評価項目のねらいを理解しました。最後に、井上さんが事業所「福わ家」を立ち上げた思いをうかがい、現在の事業所の様子を複数の写真で紹介して頂きました。映し出された利用者の明るい生き生きとした表情と、それぞれの場面の解説により、利用者一人ひとりを主役ととらえて支援していることがうかがえました。このような支援が、職員と利用者、利用者同士を、安心・信頼という関係につなげていることが感じられ、「利用者本位」の支援についても学ぶことができた研修になりました。（山本）

編集後記：この時期に、浜矩子さんの講演会にスタッフとして参加した。ジャーナリストとエコノミストに求められるものは、独善的、懐疑的、そして、執念深い事だという。それは、市民活動にも通じる事だと改めて、思った言葉だった。（K）